

令和5年度 学校経営計画に基づく各分掌の目標・計画

重点目標	分掌	具体的な方策	達成基準	中間達成状況	評価	年度末達成状況	評価
<p>(1) 生徒の知識・技能や学習習慣の定着に繋がる効果的な指導方法の確立を目指す。教員の授業力・指導力の向上に取り組む。</p> <p>○生徒が第一に希望する進路の実現</p> <p>○検定合格率の向上</p> <p>○ICT・遠隔教育システム活用の推進</p>	教務課	<p>○年2回行われる授業評価アンケートが、よりよ授業改善につながるものになるよう改善する。</p> <p>○教員がICT機器を利用しやすい環境をつくる。使いたいものがすぐに使えるよう。管理場所を整理整頓する。貸出から返却までが適切に行われるような管理体制をつくる。</p>	<p>6月までにアンケートの在り方を検討し7月と12月にアンケートを実施1月に振り返り</p> <p>4月中に管理場所の整備1学期中に管理方法の検討1月に振り返りを行う。</p>	<p>○5月にアンケートの在り方を検討し、改善を加えた形で、予定どおり7月にアンケートを実施した。昨年度までの、学校全体で統一の書式だったものを、教科や科目の特性に合わせて、実施対象や質問内容を変更できるようにしたり、記述で回答する質問も設けたことで、授業担当者が知りたことを調査したり、より建設的な意見を集約し行なうことができるようになった。</p> <p>○4月中旬に管理場所を整備した。職員室内の各所に置かれていたICT機器を一か所にまとめ、整理整頓したことで、何がどこにあるかわかるようになった。また、管理方法についても検討し、貸出簿を整備し、保管している部屋に鍵をかけた。ICT機器を使いやすくするための、管理簿に書きかずに持ち出し取り、貸出後、返却されないままという事例も散見されるという課題もある。</p>	A	<p>○昨年度まで、形骸化していきなり活用されていないアンケートであったが、改善することができた実感している。授業改善に向けて活用しやすいものにはなったが、「そもそもアンケートをしなげればならないか」という声もあった。確かに、授業を改善することが目的であり、アンケートは方法の一つにすぎない。各教員が授業改善にむけて、個々に考え、行動できる教員集団になるような仕組みを検討していきたい。</p>	A
	進路課	<p>○学習習慣の確立</p> <p>・学習実態調査の結果を生徒にフィードバックするとともに、教科・学年で分析を行い、改善に向けての取組について共通理解を図る機会を提供する。</p> <p>・学習セミナーを年2回以上行い、生徒が学習に集中できる場と機会を提供する。</p>	<p>・平日の家庭学習時間</p> <p>普通科1・2年:2時間30分以上上割 普通科3年:3時間30分以上上割 ビジネス科:1時間30分以上5割</p> <p>・学習の質に対する生徒の自己評価について、肯定的な評価が7割以上。</p> <p>・学習セミナーを年2回以上開催し、アンケートで満足の割合が8割以上。</p>	<p>○学習実態調査4月～6月の結果は以下の通りであった。6月調査において、1年生と3年ビジネス科は目標を達成した。しかし、2年および3年普通科は目標には届いていない。意識付けを継続的にしている。</p> <p>1年 普通科 40% → 52% 2年 普通科 28% → 27% 3年 普通科 30% → 34% ビジネス 26% → 50%</p> <p>○学習の質に対する生徒の自己評価については、ABCDの4段階でおこなった。6月調査の結果は以下の通り。おおむねAとBの合計が7割以上である。今後も質の向上を意識するよう、呼びかけを継続する。</p> <p>1年 普通科 A 10%、B 54%、C 28%、D 8% 2年 普通科 A 17%、B 60%、C 20%、D 3% 3年 普通科 A 28%、B 62%、C 9%、D 1% ビジネス A 45%、B 47%、C 8%、D 0%</p> <p>○3年生対象の夏季セミナーを学校で実施し、64名が参加した(昨年は55名)。生徒アンケートは以下の通り。生徒は内容に非常に満足していた。</p> <p>大変良かった 58% 良かった 42% あまり良くなかった 0% 良くなかった 0%</p>	B	<p>○学習実態調査9月～11月の結果は以下の通りであった。今回より、情報や面接・小論文対策の時間も学習時間として計上している。9月調査において、3年普通科は目標を達成した。11月調査で達成率が低下したのは、進路決定者の影響と考えられる。1年および2年は目標には届いていない。この調査は定期考査2週間前に実施したが、その時点で定期考査の勉強を開始していない生徒が多くなる。意識付けを継続する。</p> <p>1年 普通科 43% → 39% 2年 普通科 36% → 31% 3年 普通科 66% → 34% ビジネス 24% → 24%</p> <p>○学習の質(生徒の自己評価)については、ABCDの4段階でおこなった。11月調査の結果は以下の通り。各学年ともAとBの合計が7割以上となった。</p> <p>1年 普通科 A 12%、B 60%、C 23%、D 5% 2年 普通科 A 10%、B 61%、C 28%、D 5% 3年 普通科 A 28%、B 62%、C 8%、D 2% ビジネス A 34%、B 55%、C 8%、D 3%</p>	B
		<p>○入試に関する情報共有ときめ細かい学力分析、就職志望者に対する情報提供と指導</p> <p>・大学入学共通テストなど入試に関する内容や、推薦指導・教科指導などの効果的な方策について情報を共有できる機会を設定する。</p> <p>・就職志望者に対する情報提供をおこない、適切な企業選択がおこなえるようにする。</p>	<p>・外部模試の結果(ベネッセGTE)による分析で、累積人数目安 S3(難関大レベル):1名、 A2(中堅国立レベル):5名、 B2(国立大レベル):30名</p> <p>・就職志望者の内定率100%。</p>	<p>○7月進研記述の3教科総合(3年は5教科総合)の結果は次の通りであった。</p> <p>1年 S3: 0名、A2: 1名、B2:38名 2年 S3: 0名、A2: 4名、B2:23名 3年 S3: 0名、A2: 2名、B2:16名</p> <p>各学年ともA2以上の上位層が薄く、中位の生徒を上へ引き上げる指導が必要。習熟度に応じた授業や個別添削等を行っている。また、3年はB2以上の人数が少なく苦戦しているが、秋に力を伸ばすことができるよう、授業中心の指導を続けるとともに、平日補習や土曜日学習など様々な場での取り組みも継続される。</p>	B	<p>○11月進研記述の3教科総合(2・3年は5教科総合)の結果は次の通りであった。</p> <p>1年 S3: 1名、A2: 1名、B2:33名 2年 S3: 1名、A2: 2名、B2:16名 3年 S3: 0名、A2: 3名、B2:15名</p> <p>1年はS3およびB2の層において目標を達成した。A2(岡山大レベル)の人数増加を目指す。2年および3年は、2年のS3層を除き各層とも人数が少なかった。すぐ下のB3層に多くの生徒がおり(2年:25名、3年:12名)、この層の生徒を引き上げたい。習熟度減授業・個別添削・土曜日学習等を継続していく。</p>	B
ビジネス科	<p>○夢手帳を活用し、マネジメント力を育成する。</p> <p>・商業科目の課題・調査範囲・各種行事等の記載</p> <p>・毎日の計画的な家庭学習の徹底</p> <p>・検定目までの学習計画の立案</p> <p>○資格取得を推進することで生徒の学習習慣を確立し、知識や技能を定着させる。</p> <p>・毎時間の授業の予習復習を定着させる</p> <p>・検定1週間前の補習の実施</p> <p>・土曜日学習の実施</p>	<p>・検定1級3種目以上取得 15人</p>	<p>生徒の実態を教員間で共有し、協力体制ができている。</p> <p>生徒の実態に合わせた指導内容に工夫をして指導している。</p> <p>6月・7月検定は、今一歩の生徒が多い。</p> <p>2学期・3学期の検定に向けて頑張らせる計画を立てている。</p>	B	<p>検定取得を推進することで、生徒の学習習慣を確立し、知識や技術を定着させるために、全ての検定において、授業・放課後補習・土曜日学習で取り組んでいる。</p> <p>全商検定1級3種目以上合格 8人 (1月15日現在)</p>	B	
1年次団	<p>○個々の能力や適性に合った進路目標を持たせるために、面談を充実させ進路意識を高めさせる。</p> <p>○進路実現に向けて主体的に学ぶ姿勢を身に付けるために、より明確で具体的な目標を早期に設定させる。そのためさまざまな社会体験の機会を設け、実行させ、記録させる。</p>	<p>○進路に関するアンケート「学習に対する自分の努力」「自分自身の進路研究」の項目「満足・やや満足」の計90%以上</p> <p>○担任・副担任・教科担任による面談を年4回以上実施</p> <p>○進路実現のための体験学習、オープンキャンパス参加、職業インタビューなどを年度内に行った生徒の割合100%</p>	<p>○進路に関するアンケートは年度末に実施予定。</p> <p>○担任・副担任・教科担任による面談はすでに2回以上実施。現在は、文理・科目選択に向けて、担任・副担任による面談を実施中。</p> <p>○進路実現のための体験学習、オープンキャンパス参加、職業インタビューなどを夏休み終了までに行った生徒の割合57.8%(参加63名、不参加46名、未回答5名)。1年次から積極的にオープンキャンパスに参加する生徒も多く、進路実現に向けて着実に努力している様子が見られる。今後は夢現プロジェクトの探究活動を通して、職業インタビュー等を行う予定。</p>	B	<p>○進路に関するアンケートの「学習に対する自分の努力」の項目に「満足・やや満足」と答えた生徒の割合は77.8%、「自分自身の進路研究」の項目に「満足・やや満足」と答えた生徒の割合は75.5%。学習・進路研究ともに今後の努力に期待したい。</p> <p>○担任・副担任・教科担任による面談はそれぞれ3～4回実施(入学当初の面談、文理・科目選択に関する面談、教科面談など)。</p> <p>○進路実現のための体験学習、オープンキャンパス参加、職業インタビューなどを行った生徒の割合に関する調査は2月のeポートフォリオ記入により把握する予定。夢現プロジェクトの探究活動を通して、職業インタビュー等を行ったり、外部のボランティア活動に参加したりして、進路研究を行うことができ、若年の温度差はあるものの、探究活動や進路学習には前向きな生徒が多い。</p>	B	
2年次団	<p>○個々の能力や適性に合った明確な進路目標を持たせるために、面談を充実させる。</p> <p>○進路実現に向けて主体的に学ぶ姿勢を身に付けるためにchromebookと夢手帳の活用を推進する。</p>	<p>○進路に関するアンケート「進路目標が明確になった」の項目の「なった・ややなった」の計80%以上</p> <p>○担任団による面談を年5回以上、年次主任面談1回以上実施</p> <p>○年間の振り返りアンケート「主体的な学び」の項目の「できた・ややできた」の計80%以上</p>	<p>○進路に関するアンケートは年度末に実施予定。</p> <p>○担任団による面談は、現在2回(1学期当初面談、科目選択面談1回目)。今後、必要に応じて更なる面談を重ねる予定。学年次主任面談は、2学期末から3学期にかけて実施予定。</p> <p>○年間の振り返りアンケートは年度末に実施。</p> <p>*新旅山祭、修学旅行等の行事、中心となる部活動、様々なテストや考査等で物理的な多忙化を抱えていることに加え、進路を意識させるを得ない時期となり精神的にも疲弊しているように思われる。</p>	B	<p>○進路に関するアンケート「進路目標が明確になった」の項目では「なった・ややなった」の計94.3%で、ほとんどの生徒が進路目標は設定できていることが分かる。</p> <p>○担任団による面談は、現在3～4回程度(1学期当初面談、科目選択面談2～3回)。今後、必要に応じて面談を重ねる生徒もいる。学年次主任面談は、2学期期末考査終了後から実施を始め、現在進行中。</p> <p>○年間の振り返りアンケート「主体的な学び」の項目の「できた・ややできた」の計は64.4%で、目標は設定できているが努力は不足している状態。もしくは高い理想に対して自己評価が低い状態であることが伺える。</p> <p>*学年から2名、芸能界デビューの為転学というあつ例のない事態であったが、生徒は表面的には落ち着いた生活を送ることが出来た。次年度の進路決定については内に秘めた思いを持っているように思われる。</p>	B	
3年次団	<p>○個々の能力や適性に合った進路希望を実現させるために、面談を充実させる。(担任面談年間4回以上)</p> <p>○第一に希望する進路の実現に向けて、計画を明確にするために夢手帳の活用を推進し、家庭学習の質・量を向上させる。</p>	<p>○進路に関するアンケート「岡山高校の進路指導について」の項目の「満足・やや満足」の計80%以上</p> <p>○第一志望合格率60%以上(普通科)</p> <p>○検定の合格率が前年度の全国平均以上(ビジネス科)</p> <p>○就職希望者の内定率100%</p>	<p>○1学期に担任面談を2回実施し、個々に合った適切なアドバイスができるように努め、幅広い進路希望に応じて指導している。</p> <p>○学習計画を立てさせ実績を記録させるなど、夢手帳の積極的な活用を促し、家庭学習の質と量を向上させることができるように指導している。学習に取り組む姿勢は進路によっても大きく異なっているため、面談等を通じて現状を再認識させ、今以上に家庭学習の質と量を向上せられるように意識を高めさせていく必要がある。夢手帳については活用が不十分な生徒も多いので、面談等を通じて必要性を理解させ、活用できるように促していきたい。</p>	B	<p>○進路に関するアンケート(132/152名 回答)</p> <p>「岡山高校の進路指導について」→「満足・やや満足」の割合97.7%</p> <p>○第一志望の合格率(進路決定者)106名 回答)</p> <p>第一志望の合格率89.6%</p> <p>○検定合格率、()内は全国平均</p> <p>簿記実務検定31.2%(50.0%)、ビジネス文書検定42.4%(63.1%) ビジネス計算検定38.5%(62.1%)、英語検定9.1%(35.0%)、ビジネスコミュニケーション検定54.8%(84.4%)</p> <p>○就職希望者の内定率100%</p> <p>* 進路指導に対する満足度は非常に高く、生徒からは「相談しやすい環境であった」「真摯に対応してもらえる」といった意見が多く、面談等を通して個々の適性や能力に応じた進路指導を充実させることができた。また、進路実現に向けては夢手帳の積極的な活用を促し、主体的な学習への取り組みができるように指導してきたことが、第一に希望する進路の実現につながったのではないかと考えている。</p> <p>ビジネス科の検定取得は級によって合格率が異なるので一概に比較はできないが、上位級取得に向けて熱心に学習に取り組む、全商検定1級3種目以上合格者が合格した。</p>	A	

重点目標	分掌	具体的な方策	達成基準	中間達成状況	評価	年度末達成状況	評価
<p>(2) 地域の進学拠点校としての魅力ある高等学校づくりを図るため、地域・小中学校等との連携・協働による教育の推進に取り組む。</p> <p>○地域をフィールドにしたPBLの充実</p> <p>○中学生とその保護者への教育活動広報の充実と、幅広い生徒募集</p> <p>○地域の方々や関係機関への教育活動広報の充実</p> <p>○ボランティア活動の充実</p>	教務課	<p>○ホームページの情報を最新に保つ。特に日程が大きく変わる鼓山祭の紹介ページについては、今年度中に更新する。</p> <p>○保護者への情報提供を充実させるために、配布文書のデジタル化を進める。また、生徒の学校での様子を伝えるために、ブログを毎日投稿する。</p> <p>○中学校での進路説明会がより魅力的なものものになるよう改善する。</p>	入学志願者数121名以上	<p>○ホームページの情報は概ね最新の状態である。2学期以降、鼓山祭の紹介ページの更新に取り組む予定。</p> <p>○保護者への配布文書のデジタル化に取り組み、4月中に運用を開始した。情報が確実に保護者に届き、過去のものもホームページで閲覧できるので好評である。ブログについても毎日投稿している。</p> <p>○中学校の進路説明会では、該当中学校を卒業生である生徒を同行させ、岡山高校の魅力や、高校生活を紹介させるようしている。中学生にとっても高校教員からだけでなく、先輩の声を直接聞けたり、高校生活のイメージが湧くという好評である。</p>	A	<p>○年間を通して、ホームページを適切に運用をすることができた。体育の部と文化の部に分かれた鼓山祭のページを最新の状態に更新することができた。今後は、各ページの写真を新しいものに更新するなど、魅力あるホームページづくりを続けていきたい。</p> <p>○今年度は、中学校の進路説明会を始め、オープンスクール等の各種行事において、本校生徒が活躍する場面を作った。中学生向けの行事は他校と比較されることも多いが、「岡山高校は雰囲気の良い良さがよく伝わる」と大変評判がよい。来年度も続けていきたい。</p> <p>○12月の調査では、本校の志願者数が100名強と、目標に及ばなかった。</p>	A
	生徒課	<p>○地域との連携活動の充実と積極的な参加生徒が地域活動、ボランティア活動へ積極的に参加できるよう広報活動を行う。</p> <p>○部活動入部率8割以上</p> <p>○部員数不足による活動低下防止、部活動活性化の観点から入部率上昇をめざす。</p> <p>○学校生活や生徒会活動の積極的な広報活動</p> <p>HP・Instagramを随時更新し、生徒自身による学校内・外への広報活動を行う。</p>	<p>・地域活動・ボランティア参加数が昨年より上回る。学校評価で保護者(3.0)生徒評価(3.5)が昨年より上。</p> <p>・部活動加入率が8割以上。</p> <p>・保護者学校評価で昨年(3.3)以上。</p>	<p>○ボランティア総数は現在総数70名で、昨年の総数74名に近くなっている。これからの活動で昨年を上回る予定である。</p> <p>○部活動入部率は8割を超えているが、3年生が引退後は1・2年生の生徒数が少ないため、部員不足が心配される。活動についてはコロナ禍が終わり、各部とも活動は活発である。</p> <p>○生徒会の広報活動はInstagramをはじめ、SNSを使用して頻繁に中学生や地域に情報を発信できている。</p> <p>○その他、今年度から最大の生徒会行事である鼓山祭が大きく変わった中で、初めての企画内容であった体育の部を、生徒の意見を大いに取り入れながら見事に成功させることができた。</p>	A	<p>○年間通じて(1月まで)の活動で昨年を上回る94名が活動に参加。そのほか地域行事にも積極的に参加している生徒もあり、多くの生徒が地域に貢献している。</p> <p>○入部率については目標を達成しているが、今後も継続活動が可能取組を心掛けることが大切。</p> <p>○生徒会が教員と協議しながら意欲的・積極的に年間を通じて活動できた。鼓山祭をはじめ、生徒たちが希望する内容を考え実行することができた。また、SNSを活用した広報活動も年間を通じて行い、学校行事や部活動、普段の学校生活の様子を生徒目線でも広く発信できた。</p> <p>○学校評価で生徒指導に関する教職員の意見が多く見られ、来年度への課題とした。</p>	A
	進路課	<p>○夢現プロジェクトの充実</p> <p>・1年次では校外学習や地域での活動を通して、幅広い分野に触れるとともに協働して学ぶ機会を持たせる。2年次では地域活動等への積極的な参加を促すとともに、課題研究を深めさせることで、思考力・判断力・表現力を養う。3年次では、学んだことを進路決定につなげていくための支援を行う。</p> <p>・朝読書の奨励、新聞(NIE)の活用により社会問題に対する関心を深め、思考力・判断力・表現力を養う機会とする。</p>	<p>・夢現プロジェクト実施アンケートで「研究内容が自分の進路研究に役立つ」という回答の割合が6割以上</p>	<p>○各学年の総合的な探究の時間の主な活動は以下の通り。</p> <p>・1年では、1学期に6コースに分かれて校外の研修を行った。2学期より分野別探究活動を行っている。</p> <p>・2年では、課題研究に取り組んでいる。</p> <p>・3年では、生徒の進路実現に向けての支援を行っている。</p> <p>○朝読書やNIEタイムの取り組みを通じ、社会問題等に対して生徒が興味を持つことを目標に、取り組みを継続している。</p>	A	<p>○各学年の総合的な探究の時間の主な活動は以下の通り。</p> <p>・1・2年では、分野別探究活動に取り組んでいる。1月に文化センターにて、近隣の中学生を招いての発表会を行う予定。アンケートは発表会後に実施する。</p> <p>・3年では、生徒の進路実現に向けての支援を行っている。</p> <p>○朝読書やNIEタイムの取り組みは継続中。</p>	A
	厚生課	<p>○健康教育・安全教育に関する講演会等の実施</p> <p>・真庭警察署や真庭保健所、真庭市消防署等地域との連携を図る。</p> <p>・薬物乱用防止教室、自殺予防教室、性教育講演会、がん教育講演会、防災訓練等を開催する。</p> <p>・ほけんだより、防災新聞を発行することによって啓発活動を行う。</p> <p>・健康づくりに関する正しい知識を身につけ、自分の心と生命を大切にすることを意識を持った生徒を育成することを目指す。</p>	<p>・アンケートにより薬物乱用防止教室、自殺予防教室、がん教育講演会においては、「自分を大切にしよう」という意識を持った生徒が90%以上</p> <p>・防災訓練においては、「自分の生命を守る行動ができる」という意識を持った生徒が85%以上</p>	<p>・6月に1年次生を対象に「自殺予防教室」、7月に2年次生を対象に「薬物乱用防止教室」を実施した。アンケート結果によると「自殺予防教室」では、「様々な人生のリスクやストレスへの対処法として参考になった」と回答する生徒は99.1%、「自分自身を大切にしようと思った」という生徒は96.2%だった。「薬物乱用防止教室」では「知り合いから危険ドラッグの勧めがあったらどうするかに対して「きちんと断ると回答した生徒は94.7%、「自分自身を大切にしようと思った」と回答した生徒は96.0%だった(2年次生はアンケートに対して、無回答の生徒がいたため、数値が若干下がった)。以上、目標の数値を超え、生徒の自分自身を大切にしようという意識を持ったことができていると思われる。</p> <p>また、「7月ほけんだより」でも薬物乱用防止について取り上げ、「誘われた場合の上手な断り方」について保健委員からHRで伝達した。</p>	A	<p>・下半期は10月に3年生を対象に「がん教育講演会」、11月に全校生徒を対象に「防災訓練」を実施した。アンケート結果によると「がん教育講演会」では、「将来、がん検診を受診しようと思った」、「自分自身を大切にしようと思った」とする生徒が92.1%(未記入の生徒6.3%)だった。「防災訓練」では、「生命を守る行動ができる」とする生徒は93.3%、「防災新聞を読むことによつて防災意識が高まった」とする生徒は96.7%だった。その反面、「生命を守る行動ができるか分からない」とする生徒も5.8%あり、実際、災害を目の前にするとうろたえていってしまうのではないかという正直な回答もあった。達成基準にあるように「自分を大切にしよう」という意識を持った生徒が90%以上、「自分の生命を守る行動ができる」という意識を持った生徒が85%以上ということ、数字の上では目標を達成することができたと思うが、このような行事をしたから意識をもつということではなく、日ごろから自分自身の健康管理をきちんとするところから自分を大切にしていこうと感じた。</p>	A
	ビジネス科	<p>○校外学習や地域行事などの取組を充実させることで、社会人基礎力を身に付けさせる。</p> <p>・3学年において地域学習の実施</p> <p>・家庭科との連携</p>	<p>・真庭地域について興味関心を持つことができた。</p>	<p>課題研究:販売実習(鼓山祭・勝山もみじ祭り)計画中</p>	B	<p>課題研究:販売実習(鼓山祭・勝山もみじ祭り)で実習ができた</p> <p>課題研究:商品開発(「銀しぶき」を使っての商品開発が、地元の方々の協力でできた)</p> <p>乳幼児とのふれあい体験学習:真庭市・愛育委員の協力で充実した体験ができた</p>	A